

2024年2月4日 北九州シオン教会 李 泳善(イ・ヨンソン)師
エレミヤ 22:24-30 「生きることが成功です」

24”「わたしは生きている、――主の御告げ――たとい、エホヤキムの子、ユダの王エコヌヤが、わたしの右手の指輪の印であっても、わたしは必ず、あなたをそこから抜き取り、
25あなたのいのちをねらう者たちの手、あなたが恐れている者たちの手、バビロンの王ネブカデザルの手、カルデヤ人の手に渡し、
26あなたと、あなたの産みの母を、あなたがたの生まれた所ではないほかの国に投げ出し、そこであなたがたは死ぬことになる。
27彼らが帰りたいと心から望むこの国に、彼らは決して帰らない。」
28このエコヌヤという人は、さげすまれて砕かれる像なのか。それとも、だれにも喜ばれない器なのか。なぜ、彼と、その子孫は投げ捨てられて、見も知らぬ国に投げやられるのか。
29地よ、地よ、地よ。主のことばを聞け。
30主はこう仰せられる。「この人を『子を残さず、一生栄えない男』と記録せよ。彼の子孫のうちひとりも、ダビデの王座に着いて、栄え、再びユダを治める者はいないからだ。」”

聖書に出てくる放蕩息子は父の遺産を受けて外国に去ります
彼は財産を全部無くして、食べるものがなく、苦労して父親の家に戻ります。
父に彼はこう言います。

ルカによる福音書 15:21

15:21 息子は言った。『お父さん。私は天に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる資格はありません。』

ここで私たちはその息子の考えを垣間見ることができます
彼は自分が行ったすべての行動が父親に大きな罪であったことを告白します

その息子について父はこう言います。

ルカによる福音書 15:24

15:24 この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから。』そして彼らは祝宴を始めた。

ここで父は別の観点で息子を見ています。
つまり、息子が行為を見たのではなく、息子の身分を見たのです。
罪がいくら多くても父親には彼は変わらない息子であるのです。

皆さん、神様は私たちの行為をご覧になる方でもありますが、

それよりも私たちの身分をみます。
私たちが何をしたのかより重要なのは、私たちが誰なのかということです。

今日聖書に出てくる南ユダの王がいます。
彼は小さい頃王になりましたが、3ヶ月で捕虜に捕まっています。
37年間刑務所で過ごす
しかし、その後、彼は解放され、バビロン王と同じ食卓のテーブルでご飯を食べる身分に回復します
生涯彼は大きな仕事をしたことも偉大な業績を残したわけでもない
しかし、彼は困難な時期に生き続けました。
そして彼の子孫を通して、後にイエスが生まれます。

今日は聖書を通してこの人物を見たいです。
あなたに貴重な恵みがあることを願っています。

私たちが読んだエレミヤの時代、2600年ごろ前に起こったことです。
南ユダが滅亡に向かって行く時期にエホヤキムという王がいました
彼はエジプトの王バロネゴによって建てられた王でした。
しかし、聖書は彼が神様を見て悪を行った王だったと言います。

彼は神を愛し、民によく仕えなければなりませんでしたが。
しかし、彼はエレミヤの巻物を燃やした王でした。
彼は国が難しくても自分の宮殿を建てる事と褒められることに興味がありました。
彼が王としている間、エジプトは完全に力を失い、バビロンが強大な国になりました。
エホヤ・キムはバビロンに反逆し、バビロンは南ユダを侵略します。

エホヤキムは結局死んで、次にエホヤ・キンが王になりました。
しかし、エホヤ・キンも、神が見るのに邪悪な王でした。
エホヤ・キンが王になってから3ヶ月で再びバビロンのネブカドネザルが攻め込まれ、
エホヤ・キンを捕虜にし、
エルサレムの多くの民と宝物を奪って行きました。

今日聖書の言葉を見ると、エホヤキムの子エホヤギンについて話しています。

24節を見てください。

エホヤキムの息子エコヌヤ...という名前が出てきます
したがって、エコヌヤという名前はエホヤ・キンの別の名前であることがわかります。

ユダの王エホヤキムの子エコヌヤ(すなわちエホヤギン)が神の右手にある印章指輪であっても…。

この指輪は王が挟む指輪です。

ワックスのようなものを溶かしてその上に指輪で塗装を撮ればそれは王の塗装という証拠でしょう。

言い換えれば、この指輪は王の権利であり、権威を象徴しています

ところが、エコヌヤ(エホヤキン)という王の権威を抜いてしまうということは、その王を退けさせるという意味です。

エホヤキンは本当に 18 歳(王 24:8-9、歴代 36:9 には 8 歳)で王位に上がって 3 ヶ月間王でした。

しかしその後、バビロンで捕虜になります。

25 節を見てみましょう

神様は南ユダの王を誰に渡すのか。

王の命を求めている人の手に

王が恐れる人々の手に

バビロン王ネブカドネザルの手に

カルデアの人々の手に..渡すだろう…

これは同じ意味ですが、強調したものです。

絶対ユダの王はその人たちの手に渡されてはならない存在です

これが起こってははいけません。

しかし、神は自分の手にユダの王エホヤキンを渡すという意味です。

26-27 節を見てみよう

それでは、そのように引き渡されたユダの王はどこに行くのでしょうか。

エホヤキンは彼を産んだ母親のところ、

また自分が生まれたところでない、他の国に投げ出されるでしょう。

そしてその地で死ぬということです。

王はその土地を離れてはならない人です。

王がその国を去ったということは、その国が滅亡したという意味です。

その王はその地に戻らず、投げ出された地で死ぬでしょう。

どんなに戻って欲しいのか、彼らは戻ってこないでしょう。

実際、彼はその捕らえられた土地で死を迎えました。

本当に貧しい運命です。

28 節を見てみましょう

エレミヤはこう言います。

エコヌヤ(エホヤギン)はさげすみを受ける壊れた土器ですか？

軽蔑を受ける壊れた土器…

これは役に立たない存在です

人々に無視され、いじめられ、悪口を浴びた壊れた土器

彼はいろいろな種類の悪口を言われたでしょう。

バビロンの兵士たちには嘲笑されただろう

南ユダの民はエコヌヤにどれほど悪口を言ったのでしょうか。

最近では、多くの国が大統領や首相にどれほど非難をしていますか？

エコヌヤの無能さのために国が滅びたのです。

民は捕虜に引きずられました。

普通の生活や幸福や喜びは今夢を見ていません

なぜこれが起こったのでしょうか？

なぜ彼と彼の子孫が知らない土地に投げ込まれたのでしょうか。

29 節を見てください。

この詩は非常に切実な心が伝わります。

土地よ、土地よ、土地よ… 神様の言葉を聞いてください…

このように地面に叫ぶ理由は何でしょうか。

ここで土地という言葉を一度考えてみましょう。

地とは、人にとって欠かせない神の祝福です。

聖書を詳しく見ると、土地というテーマで見ることができます

神は天地を創造しながら地を作り、その地を祝福し、

特別にエデンの園を作りました

人間の罪のために、アダムとイブはその地から追い出されてしまいました。

神はノアの時代にその地を水で裁きました。

神は彼の民イスラエルを確立するために信仰の先祖アブラハムを選ばれます

そして約束の地とその上に天の星のような海の砂のような民を約束されました。

ヨシヤを通してそのカナンをイスラエルの民が占領します。

地は常にその上に生きる神の民の信仰に関連しています。

カインがアベルを殺した後、神はカインに「あなたの弟の血が地上で私に泣いている」と言われます。

このように地と信仰とはつながっています
イスラエルの民のエルサレムが崩れ、その民がそこから追い出されて知らない土地に投げ込まれる事実に対して、エレミヤは嘆息するのです。

土地よ、土地よ、土地よ… エホバの言葉を聞く
私たちは愛の心でその土地のために祈る仲間の祈りをここに見ます
希望が消えた凍った土地にも、その地を中報する祈りの祈りは力があります。

実際の 30 節には絶望的な話があります。

30 節を見てみましょう

エホヤキンという人の人生はとても悲しいものでした。
彼は 18 歳で南ユダの王になり、わずか 3 ヶ月間、国を治めます。
それからバビロンのネブカドネザルが再び打ち込まれ、彼は捕虜に捕まっていくでしょう。
これがバビロンに連れて行かれた捕虜でした

聖書に見ると、彼は捕まってから 37 年間刑務所に閉じ込められました。

Ⅱ列王記下 25:27

25:27 ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目の第十二の月の二十七日に、バビロンの王エビル・メロダクは、彼が王となったその年のうちに、ユダの王エホヤキンを牢獄から釈放し、

25:28 彼に優しいことばをかけ、彼の位をバビロンで彼とともにいた王たちの位よりも高くした。

25:29 彼は囚人の服を着替え、その一生の間、いつも王の前で食事をした。

18 歳で捕虜に捕まった若い王が 37 年間刑務所にいたことを想像してください
55 歳になったので、彼は全く別のおもてなしを受け、囚人服を脱いで王の食卓でご飯を食べました。
彼は貴重な人としておもてなしを受けました
そして彼の孫で生まれた人が新しい歴史を作るようになります

マタイ 1:12 を見ると

1:12 バビロン移住の後、エコニヤにサラテルが生まれ、サラテルにゾロバベルが生まれ、

ここで出てくるエコニヤはまさにエホヤキンです。

彼の息子はサラテルであり、彼の孫はゾロバベルでした。

このゾロバベルは、後日バサ王ゴレスの許しで、大祭司ヨシユアと共にエルサレムに帰還したユダヤ総督でした。

それによって神殿の再建が始まったのです。

これによってダビデの子孫は王として建てられなかったが、ダビデの子孫として来られるイエス様までその命脈が続いたのです。エホヤキンが37年間刑務所で何をしたのか聖書は言っていませんしかし、1つの明らかな事実は、彼が37年間苦しんでいる間でも生き残ったということです。

ゾロバベルが崩壊したエルサレム神殿を再建し、彼はダビデの子孫としてイエス様までその代が続いたのです。

皆さんエホヤキン(エコヌヤ)という人物は抜けた印鑑でした。

壊れた土器であり、他の土地に投げられた存在でした

刑務所で毎日死にたかっただろう

しかし彼は生き残った

息をして、ご飯を食べて生き残った

時々、私たちの人生がトップに上がることが目標になることがあります

しかし、荒野のような道に行くときは、頑張ることが目標です。

生き残ることが目標です

荒野40年を生き残った民が後に約束の地に入ったのです。

主はあなたと共におられます

今日一日を主と共に歩んでくださる皆さんになりますように